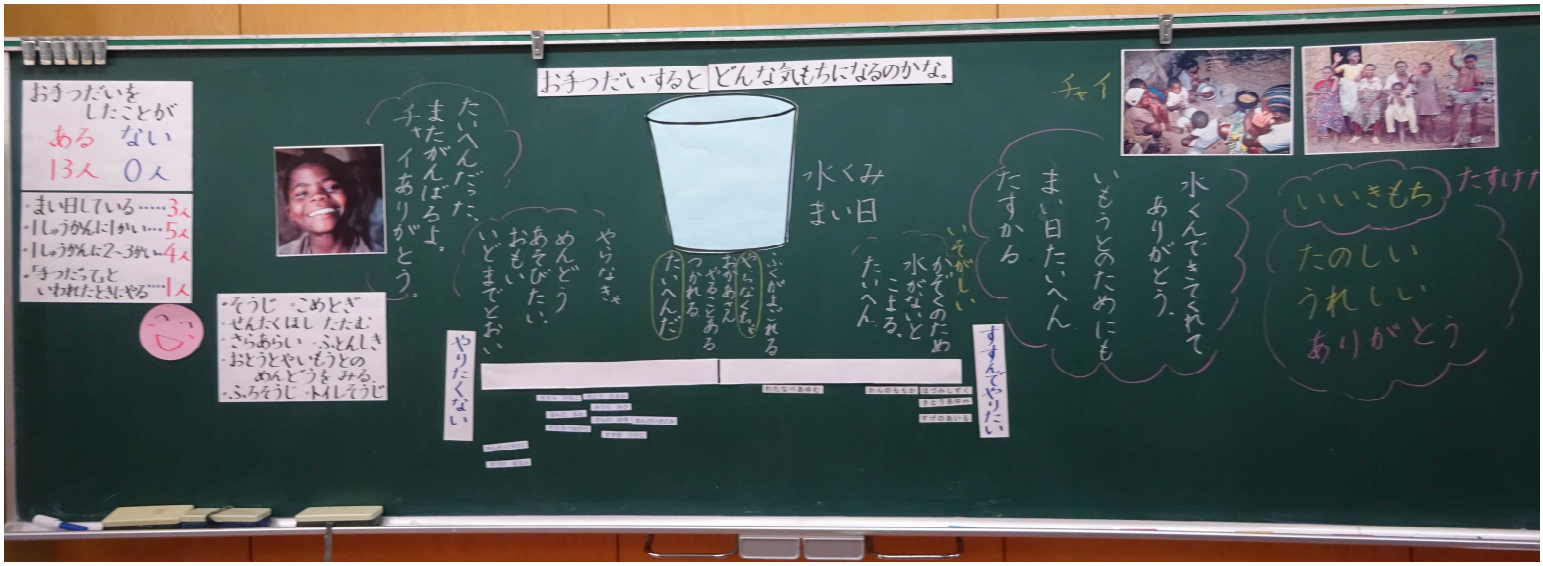
令和２年度

福島県道徳教育総合支援事業

令和２年度

道徳教育推進校
授業の実際と考察



福島県教育委員会

石井小学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和２年１２月２日（水）第５校時
授業者：二本松市立石井小学校　教諭　酒井浩子

授業テーマ	保護者の授業参加により親の立場や願いに直接ふれることを通して、家族の一員としての自覚や家族の役に立ちたいという想いを高める授業

１　主題名　かぞくのために　　Ｃ　家族愛、家庭生活の充実

２　教材名　サバンナの家族（出典：新・みんなのどうとく　学研）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導の内容は、父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知ることにある。低学年の子どもたちは、家族の一員であることに喜びを感じつつも、家族に守られ受け身の立場であることが多く、自分から家庭生活に関わろうとするところまでには至っていない。家族の愛情に気付いて、積極的に関わり、家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようにしていくことが大切である。

（２）児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、学校生活では、係や当番の仕事、縦割り班での一斉清掃などに喜んで取り組んでおり、できることが少しずつ増えてきている。しかし、家庭生活においては、手伝いをしたことはあるものの、まだまだ家族に頼ったり甘えたりすることが多く、家族に守られていることを当たり前に思っている児童がほとんどである。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

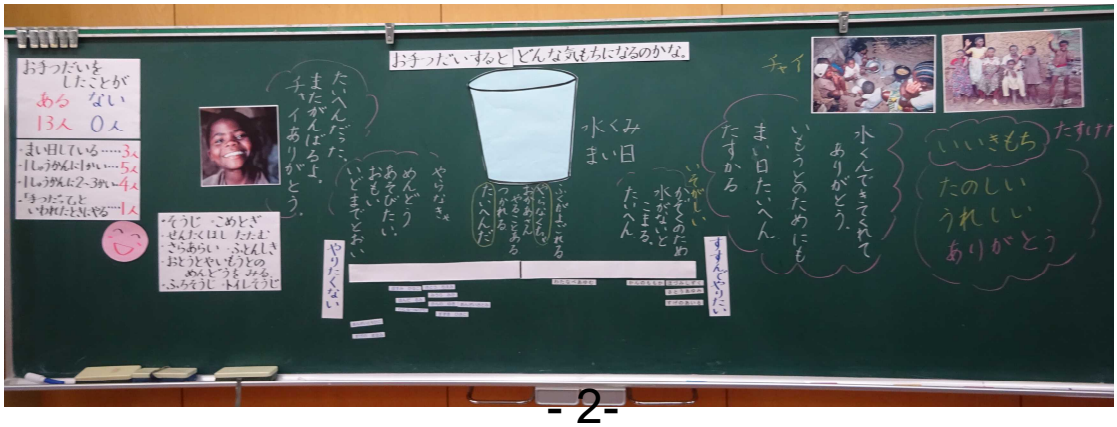
本教材は、サバンナで暮らす主人公の生活について考えることを通して、家族の中での自分の役割を見つめ直すものである。主人公は、学校から帰ると水くみに行く生活を続けているが、「いやだと言ったことはない」と話す。自分たちの生活と比べながら主人公の気持ちを考え、自分も家族の役に立っていることに気付かせたい。

本時では、自分たちの手伝いをアンケートで振り返り、主人公の手伝いについて考えさせる。保護者も交えた話合いや役割演技を通して、親の立場での思いに直接ふれるようにしたい。その中で、家族の役に立つ喜びや、家族の気持ちを実感をもって捉えさせたい。終末では、これまでの自分の生活を振り返るとともに、保護者から、子どもの手伝いがうれしかったこと、助かったことを話していただき、家族の思いにふれるようにする。自分の生活を見つめ直すことで、家族の一員としてできることを進んで実践しようとする意欲をもたせ、今後の家庭生活の充実へとつなげていきたい。

４　本時のねらい

保護者や友達と話し合ったり、役割演技をしたりすることを通して、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立とうとする態度を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



６　学習過程

	学習活動　○主な発問 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価
導 入	1　自分がしているお手伝いについて思い出す。 ○　どんなお手伝いをしていますか。 ・　お皿拭き ・　洗濯たたみ ・　料理のお手伝い お手つだいすると、どんなきもちになるのかな。	5	○　お手伝いについてのアンケート結果を示しながら、これまでしたことがあるお手伝いやその時の家族の様子や気持ちを振り返り、本時のねらいとする価値に対する問題意識を高める。
展 開	2　教材を読んで考える。 （1）ラジャブが、水くみをしている時の心の中について考える。 ○　ラジャブは、水くみをしながら、どんなことを考えていたのかな。 ［あまりやりたくないなあ］ ・　重くて、運ぶのが大変。 ・　遊びたいな。 ・　学校の宿題を早くやりたいよ。 ［進んでやりたい］ ・　水がないと困ってしまう。 ・　お父さんやお母さんは、他の仕事もあって忙しいから、手伝わなくちゃ。 ・　お母さんが喜んでくれる。 ・　自分も役に立ちたい。 （2）晩ご飯の後、チャイを飲みながら、家族はどんなことを話しているか考える。 ◎　ラジャブのくんできた水でチャイを飲みながら、家族はどんなことを話しているかな。 ・　ラジャブのおかげでおいしいチャイが飲めるよ。 ・　水くみしてくれてありがとう。助かるよ。 ・　また明日もぼくが水をくんでくるよ。 ・　学校で、友達と遊んで、楽しかったよ。	25 (15) (10)	○　写真を提示し、児童にはなじみが少ないであろうアフリカ・サバンナの暮らしを簡単に紹介することで、話の内容を捉えやすくする。 ○　掃除の時などのバケツの水を運んだ経験を想起させ、水の重さや運ぶ距離など、大変さを想像させる。 ○　心のものさしで自分の考えを表すようにさせる。 ○　進んでやりたいと考える子どもに対しては、「重いからやらなくてもいいんじゃない。」「お母さんにまかせたら。」など、ゆさぶりをかけることで、考えを深めることができるようにする。 ○　友達や保護者のいろいろな考えを聴き合うことにより、多様な見方・考え方にふれさせる。 ○　子どもがラジャブ役、保護者が家族役となり、役割演技をすることで、家族の一員として役に立つ喜びや、家族の温かい愛情を実感させる。 ※　ラジャブの手伝いを、本人の気持ちや家族の思いなど、多様な立場で考えている。　（発言、役割演技）
終 末	3　自分を見つめて考える。 （1）自分の生活を振り返る。 ○　今までの自分は、家族のために、進んでお手伝いしていたかな。 （2）保護者から、手伝ってもらってうれしかった話を聞く。 ○　おうちの人に、手伝ってもらってうれしかったことを聞いてみましょう。	15	○　お手伝いについて、これまでの自分を振り返り、ワークシートに記入させる。　（４段階での自己評価・記述） 【手立て２・イ】 ○　何人かの保護者に、手伝ってもらってうれしかったこと、助かったことを話してもらい、自分が役に立つことを感じさせる。　【手立て３・ア】 ※　自分の生活を見つめ、家族の一員として、家族の役に立とうとしていたかを振り返りながら考えている。 （ワークシート、発言）

7　考察

【視点２】質の高い多様な指導方法への取組から

○　家庭での手伝いについて振り返らせ、アンケートの結果を導入と終末に取り入れた。児童に本時のねらいに関心をもたせることができ、終末では自分の手伝いについて見つめ直し、カードに具体的に記述して振り返ることができた。

○　「心のものさし」を活用したことで、児童は自分はどう思うか、どうするかと自分自身の問題として真剣に考えていた。また、家族の思いを想像しながら考える姿を見ることができた。

○　本時では保護者の授業参加により、「心のものさし」に保護者自身の考えを表したりその思いを発言したりするようにした。また、児童に多様な考えに触れさせたいという担任の思いを事前に保護者に伝え、意図的に揺さぶる発言を保護者から得ることができた。児童の思いがなかなか出にくかった「やりたくない」という考えを、保護者がネームプレートと発言で表したことにより、児童から「やりたい」「やりたくない」の両方の気持ちがあることが述べられ、考えが広がる姿を見ることができた。

○　保護者の協力により温かい雰囲気で役割演技を行うことができた。児童は、自分の手伝いが家族の役に立ち、家族の喜びとなっていることを保護者の発言から実感することができた。

○　終末で、児童は自分がどのように手伝いに取り組んできたか、また、手伝いをしてどんな気持ちだったかを振り返ることができた。家族の役に立っていること、家族が喜んでいることを感じた発言や記述が見られた。

●　役割演技では、演技をした児童は演じてみてどう思ったか、見ている児童はどう感じたかを伝えることができると、さらに考えを深めることができたと思う。児童の考えを共有したり深めたりできるようにしたい。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　道徳教育について、児童の発言や様子等の実際の姿を学級だよりに掲載して知らせてきた。保護者に、取組に対する理解をいただけるよう働きかけている。

○　本時のねらいの達成のためには、保護者にも教材の概要やねらいとする価値を理解していただくことが必要と考えた。前回の道徳科の授業に参加してくださった保護者には、次回の内容について説明したり、保護者全体には学年便りで協力していただきたいことを伝えたりした。そうした連携の手立てにより、参加した保護者からは、「子供の様子が分かりました。」「こういうふうに学習しているのですね。」などの感想が聞かれた。保護者の適切な関わりにより、学びを深めることができた。

○　身近な人の実際の考えや切実な願いを聞くことは、児童にとって思いや考えを深めたり、実践意欲を高めたりするために有効だった。今後も家庭や地域と連携しながら、効果的な指導に努めたい。

●　保護者の参加人数によって、どのように関わってもらうか調整が必要になることがあった。

浅川小学校　第６学年２組　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年７月３日（金）　第５校時

授業者：浅川町立浅川小学校　教諭　鈴木　文恵

授業テーマ	自分事として捉え、考えさせたり対話させたりする活動を通して、うわさ話や差別に向き合い、だれに対しても公正に判断し、公平な態度で接し、社会正義を実現しようとする心情を育てることができる授業

１　主題名　　「身近なうわさ話や差別に向き合う」　Ｃ－（１３）公正、公平、社会正義

２　教材名　　「チャットのつぶやき」　（出典：福島県教育委員会作成動画教材）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題は、高学年の内容項目Ｃ－（１３）「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平にし、正義の実現に努める」ことをねらいとしている。

少子高齢化、情報化、グローバル化などの社会の急速な変化、また昨今の新型コロナウイルスによる社会不安の中で、ますます価値観が多様化していくこれからの社会を生き抜くには、様々な文化や異なる考え方を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることが大切である。差別や偏見によるいじめ、不登校、暴力行為、怠学等の我が国における教育諸問題に対しても、児童同士が私心にとらわれず、互いの考え方や生き方の違いを受け入れ、公正に物事を判断できるようになることで、改善への道が一つ開けるのではないだろうか。その意味でも、社会正義を実現する資質を持つことは、これからますます重要になってくる。自分の正義を明確にして、それを実行する意志や心の強さをもつとともに、だれに対しても公正、公平に接することについて、児童にしっかりと考えさせていきたい。高学年になり様々な葛藤が増えていく中で、児童がもっている正義を愛する心をさらに発展させ、だれにでも公正、公平に接する心情や態度を一層育んでいきたい。

（２）児童の実態（子ども観）

本校の高学年の児童は、だれに対しても、差別せず、偏見をもたず、分け隔てなく接する態度の大切さは知っている。しかし、排他的な仲間の関係や差別的な言動に接したとき、正しいとは分かっていても声を上げられず、その場の雰囲気に流されて問題の解決に向けて行動できない現状がある。このことは、人間関係が表面的であるからであり、児童が社会正義の実現より、自分の立場の安定を優先してしまう弱さを出してしまうためだと考える。そこで、自分や相手だけでなく、だれに対しても公正に判断し、公平に接しようとする心情や態度を育てることが必要であると考えた。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、Ａさんが新型コロナウイルスに感染したのではないかとチャットでやりとりをするところから始まる。やりとりの中で、誹謗中傷やデマに直面したわたしが、母親との会話をきっかけに、自分の身近にある級友へのうわさ話や差別について考えるという内容である。

指導に当たっては、友達やＢさんの気持ちを考えさせることで、人間のもつ心の弱さを共感的に受け止めさせながら、自己をみつめる活動を取り入れる。次に、友達と交流したり、全体で交流したりする活動、教材の中の主人公が皿をじっと見つめる時の気持ちを考えさせることで、うわさ話や差別を解消することにつながる公正な判断・公平な態度の大切さを捉えさせる。最後に、自分の生活をふり返る活動を行うことで、自己を見つめ直し、公正・公平についての心情や態度を育んでいきたい。

４　本時のねらい

わたしや友達、Ｂ さんの気持ちを考えさせたり対話させたりする活動を通して、うわさ話や差別に向き合い、だれに対しても公正に判断し、公平な態度で接し、社会正義を実現しようとする心情を育てる。

5　実際の板書

6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1　新型コロナウイルスの問題に目を向け、身近な人が感染したらどうするか考える。 (1) 新型コロナウイルスについてどう思うか。 (2) 身近な人が新型コロナウイルスに感染したらどう思うか。	5	○　自分が知っている情報や生活をふり返り、新型コロナウイルスに対するイメージを発言させる。 ○　他人事として捉えず、身の回りで発生した時のことを想定させ、自分事として発言できるような雰囲気づくりに努める。
展開	2　資料動画を見て話し合う。 (1) うわさ話を続ける友達とＢさんの気持ちを考える。 友達・うつされたらいやだな。 ・近づきたくない。 Ｂさん・勝手に決めつけてはかわいそう。 (2) 友達やＢさんの気持ちを基に、自分の考えを作り、交流する。 ○ Ｂさんや友達と同じ気持ちかな。 ・感染したくないから近づきたくない。 ・こわい。 ・こわいけど、偏見はよくない。 ・勝手に決めつけてはいけない。 (3) トリオトークを行い、様々な考えに触れる。 (4) 全体交流する。 3　皿をじっと見つめている時のわたしの気持ちを考える。 (1)　自分の考えをまとめる。 ◎ お皿をじっと見つめている時、わたしは、どんなことを考えたかな。 ・つらい思いをさせてしまったな。 ・その場の雰囲気で行動してはいけない。 ・正しい情報で判断しなければならない。 （2）全体で共有する。	25	○　まず動画教材を視聴させる。視聴後に動画に登場したチャットの文面を配付する。 ○　うわさ話を続ける友達と「よくないよ」と言ったＢさんの両方の気持ちを考えさせる。 ○　心のものさしとハート図で考えを表出させることで、自分の考えを視覚的に捉えやすくさせる。 ○　ハート図で、表出された心情を心のものさしを用い、類型化して板書をする。 ○　トリオトークする時は、どうしてそう思うかを聞くようにさせる。 ○　紹介したいと思う友達の意見を問い、全体に広める。 ※　自分と違う立場や感じ方、考え方を比べて考えようとしているか。（観察） ○　わたしの気持ちを考えさせることで、うわさ話や差別について考えさせるようにする。
終末	4　これまでの話し合いを基に、自分のよりよい考えをまとめる。	15	○　友達の意見を聞いて、考えが変わった児童を意図的に指名し、理由を尋ね、全体に広げる。 ○　学習をふり返り、うわさ話や差別にどのように向き合うべきか、自分の考えでまとめさせる。 ※　うわさ話や差別に直面した場合、どのように行動すべきかを自分事として考えているか。（発言・ワークシート）

７ 考察

「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳科教材」の活用の視点から

（１） 課題を自分事として捉え、自分の考えをもつことができる子どもの育成について

○ 導入で、自分が知っている情報や身の回りで発生した時のことを想定させた発問をしたり、動画視聴で、視覚的に捉えさせたりしたことで、自分事として捉えさせることができた。

○ 心のものさしとハート図で考えを表出させることで、自分の考えを視覚的に捉えやすくし、さらには、自分の考えの根拠を明かにさせることができた。

○ 終末にうわさ話で被害を受けた方の記事を紹介したことで、より自分の身近に起こり得ることだという意識をもたせることができた。

● 全体の場で、ハート図について触れることができなかった。心のものさしだけでも、十分に自分の考えを表出していた児童もいた。どの思考ツールをどこで、何をさせるために使うのか、再度検討する必要がある。

（２） 互いのよさを認め合い、相手の立場に立って相手を理解することができる子どもの育成について

○ ネームカードを使い、心のものさしに自分の考えを提示させた上で、トリオトークをさせた。そのことにより、友達の考えに興味をもつ児童が増え、さらに、自分の考えとその理由を伝え合わせたことで、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解させることができた。

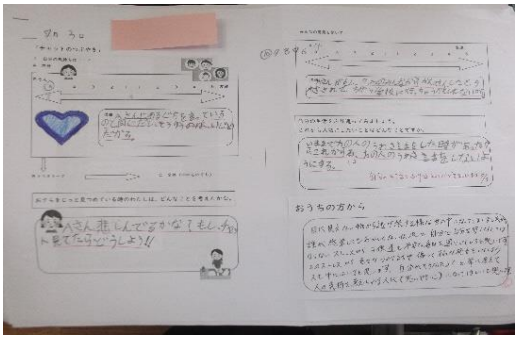
子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

（１） 「児童がより多面的・多角的な見方に発展しているか」について

○ 心のものさしを活用し、自分の考えを明確にさせた上で発表させた。自分の心の揺れを表出させたり、自分以外の考えに触れさせたりと、様々な考えについて深く考えさせることができた。心のものさしは、とても有効だった。

○ 教師が、気持ちが揺れ動いている児童に意図的指名をしたり、「～さんの気持ち分かるかな。」という問いかけをしたり、うなずいている児童を認め価値付けた。そのことで、より児童の考えが深まり、多面的・多角的な見方につながっていった。

（２） 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか」について



○ 教師側が用意していた心のものさしは、５メモリまでだったが、話し合いで考えを深め、メモリ以上の気持ちまで高まった児童がいた。その一方で、より迷う児童もいた。これらのことから、自分自身との関わりで自己を見つめ考えを深めることができたのではないか。

○ ワークシートに初めの自分の考えと話し合った後の自分の考えを書かせた。自分を振り返る時間には、自分の気持ちがどう変容したかや友達の考えのよさを書いている児童が多くいた。このことから、ワークシートの活用は有効であった。

小田川小学校第２学年 道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年１１月２４日（火）第５校時
授業者：白河市立小田川小学校　教諭　　金澤敦子

授業テーマ	自分の考えをもって話し合い活動に参加し、登場人物のあたたかい心について考えることで、身近にいる人にも温かい心で接したり、親切にしたりしていこうとする心情をもつことができる授業

１　主題名　　あたたかいこころ　B−（６）親切、思いやり

２　教材名　　「とくべつなたからもの」　（出典：小学道徳 ゆたかなこころ 光文書院）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人間関係を築いていくためには、温かい心で相手に接することが大切である。困っている人を見たときに、とっさに自分にできることはないかと考えて手を差し伸べようとする気持ちが温かい心である。幼い人や友達に温かい心をもって接することによって、相手への親切な行いが生まれると同時に、自分が人の役に立ったという喜びが生まれる。それがこれからも思いやりのある行動をしようとする意欲を高めるのである。相手の立場に立って考え行動することは、自己中心的な態度を改めたり、他者との人間関係を深めたりすることにもつながり、人間関係をより豊かにしていくのである。

（２）児童の実態について（児童観）

本学級の児童は男子１１名、女子５名、計１６名であり、「よいこと」に憧れ、人の助けになるようなことを進んでしようとする気持ちが強い。道徳アンケートでは、「周りの人に優しい気持ちで親切にすることができていますか。」という問いに対して１５名が「あてはまる・まああてはまる」と答えており、日常的に何か困っている友達がいるとすぐに行動に移して助けてあげようとしていることがわかる。しかし、相手が本当にして欲しいことを考えているかというと、自己満足で終わっていることがある。そこで、人間関係の中で相手の心情を想像したり、推察したりする力を育てる必要を感じる。本学習によって、相手の気持ちを考え、よい行いをしたときに得られる気持ちの良さや、親切な行為がもたらす喜びや温かい人間関係について学ばせたい。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

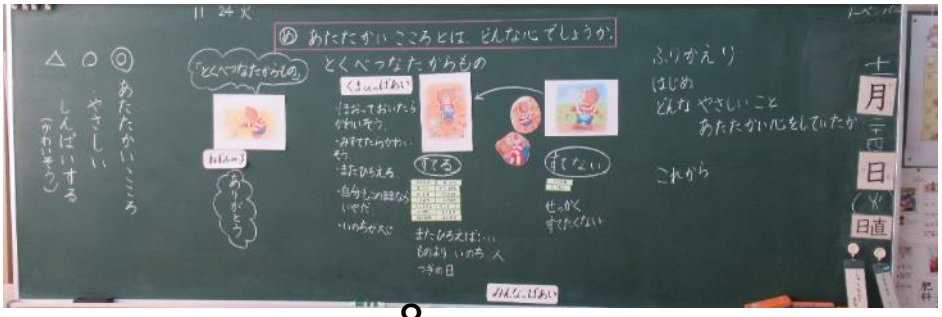
本教材は、くまが困っているねずみの子に出会い、自分にできることを一生懸命考え実行するというお話である。自分が拾い集めた宝物を捨て、そのかばんにねずみの子を入れて助け出すくまの姿や、かばんに一つだけ残っていたどんぐりを握りしめ、「これ、おにいちゃんのたからもの。」と手渡すねずみの子の姿から、「親切の達成感」や「親切でつながる温かい関係」などの思いやり・親切のよさをしみじみ感じることができる教材である。

最初に「温かい心」についてイメージを膨らませ、本授業で大切にすることに意識を向けさせる。物語の内容理解を助け、集中力を持続させるため挿絵を使って話を進め、くまの親切な行動や決断の場面に着目し、自分ならどうするか考えさせていくようにする。窮地の中で、宝物を捨てることを決断したくまの心、助けてくれた感謝の気持ちをどんぐりに託すねずみの行為は、全て温かい心がもととなっていることに導きたい。さらに、「とくべつ」の意味を問うことで、親切な行為がもたらした達成感や心が通じ合う喜びがあることにも気付かせたい。

４　本時のねらい

くまくんが宝物を捨ててねずみの子を助けた思いを話し合うことを通して、身近な人に対して温かい心をもって、親切にしていこうとする心情を育てる。

５　板書計画
（実際の板書）



６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　○発問）	時間	○教師の支援および指導上の留意点 ※評価
導入	１　ねらいとする道徳的価値の方向付けをし、学習課題を確認する。 （１）「あたたかいこころ」についての考えを話す。 ○　あたたかい心とは、どんな心でしょうか。 （２）学習課題を確認する。 め　あたたかいこころとは、どんなこころでしょうか。	５	○　終末で振り返りを書く時に変容を捉えられるように、持っていると思うときは○、そうでないと思うときは△をノートに書かせる。
展開	２　教材文を読み、あたたかい心について考え、話し合う。 （１）話の概要をとらえ、くまくんの行動の理由を考える。 ○　ねずみの子を見つけたとき、みんながくまくんだったら、どう声をかけますか。 ○　あなたなら、たからものを捨てられますか。 ◎　くまくんは、どうして宝物を捨ててまでねずみの子を助けたかったのでしょうか。 （２）くまくんが「とくべつなたからもの」と言った理由を考える。 ○　「とくべつなたからもの」とは、どういうことでしょう。	３３	○　集中してお話を聞くことができるように、全員を前に集める。お話の登場人物を紹介し、挿絵を使いながら教師が範読をする。 ○　くまくんの行動に着目し、自分がくまだったら、どう声をかけるか問いかける。 ○　捨てられる・捨てられないにネームプレートを貼り、自分の立場を明らかにさせる。 ○　くまの気持ちを想像して、ワークシートに書かせた後に、全体で交流を図る。 ○　くまの相手の立場や気持ちを思いやる心、命を大切に思う心への気付きを大切にしていく。 ○　ねずみの子からもらったどんぐりにこめられていたものは何か、グループで話し合い、全体で話し合う。 ○　ねずみの子が助けてもらったことに対する感謝やお礼、くまくんに対する思いやりの心、親切のお返しを受けた喜びの気持ちなどの気付きを取り上げていく。
終末	３　学習を通して考えたことを書く。 ○　今日の学習で学んだことや感想を書きましょう。 ・はじめは、～ ・これからは、～	７	○　導入で見つめた考えにも触れながら、今までの自分を振り返る。 ※　身近な人に対して温かい心をもって親切にすることのよさが分かり、温かい心について自分のこととして考えている。

７　考　察

質の高い多様な指導方法の視点から

○　教材提示について、教科書の挿絵をもとに紙芝居を作成し、絵を見ながら話の筋をとらえさせたり、登場人物の思いをとらえたりさせることができた。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　低学年としては、道徳ノートに主題について、導入時に考えていたことを振り返り、本時の価値について考えるようにした。本時では、それらに加えて、これまでの自分の行動を思い出すという視点で書かせ、自分自身との関わりから理解を深めさせる必要があったと考えられる。

小田川小学校第５学年　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年１１月２４日（火）　第５校時
授業者：白河市立小田川小学校　教諭　畠野　剛

授業テーマ	登場人物が葛藤している場面について、心情メーターを活用し、多面的・多角的に考える活動を通して、誠実に生活しようとする意欲をもつことができる授業

１　主題名　　誠実に生きる　　A-（２）正直、誠実

２　教材名　　「手品師」　（出典：小学道徳 ゆたかな心　光文書院）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

誠実さとは、他人が見ている見ていないにかかわらず、他人に対しても自分自身に対しても、うそ・偽りやごまかしがなく、自分の良心に従い、真心をもって行動しようとする態度のことである。自分が言ったことと行動が伴わないと、他人や社会の信頼を失うだけでなく、自分の心をも暗くし、生活も暗くなる。しかし、そのことが逆であれば、自他共に心が明るく晴れやかになり、生活も明るくなる。誠実に生きることは難しいことで、なかなかできることではないが、そのような生活をしたいと心掛けて生活することが大切である。

（２）児童の実態について（児童観）

本学級の児童は男子３名、女子９名、計１２名で、明るく素直な児童が多い。過ちや失敗が起こり、他人に迷惑をかけたときには、ほとんどの児童が素直に謝罪をする姿が見られる。その一方で、他人の行動や考え方に左右される姿が見られることもある。校内での道徳アンケートの項目にある「正しいと判断したことを、自信をもって行えますか。」の結果を見ると、「あてはまる」と回答した児童は２名だけであった。そこで、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが、内面だけでなく、他人の受け止めを過度に意識しすぎず、外に向けても発揮することの大切さを理解する必要がある。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材の主人公は、いつか大劇場のステージに立つことを夢みて腕を磨いている、あまり売れない手品師である。ある日、町で会ったさびしい思いをしている男の子を元気づけるために、手品を見せる。「また手品を見せる。」と男の子に約束をした日の夜、友人から大劇場のステージに立てるチャンスがあるという誘いの電話が入る。「大劇場のステージに立つ」という夢と「男の子との約束」のどちらを選ぶか迷いに迷うが、自分自身に誠実でありたいと考えた手品師は、男の子との約束を選ぶ。児童にとっては、自分の生き方として納得した選択をすることが、よりよく明るい生活を送るために必要な見方・考え方であるということに気付くきっかけとなる教材である。

自分が手品師だったら、心の中でどんな葛藤があるか、どちらの選択をするかなどについて自分事として考える活動を通して、自分なりに納得する「男の子との約束」を選んだ手品師の生き方のすばらしさについて考えさせたい。また、友達が選択した根拠について友達と話し合いをしたり、全体で共有したりする活動を通して、手品師は我慢して仕方なく選択したのではなく、自分の良心に従い、物事を決断するという生き方も誠実な生き方の一つであることに気付かせたい。

４　本時のねらい

手品師の葛藤について話し合うことを通して、誠実に生活しようとする実践意欲を育む。

５　板書計画（実際の板書）

６　学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問　○発問　）	時間	○教師の支援および指導上の留意点 ※評価
導入	１　ねらいとする道徳的価値の方向付けをし、学習課題を設定する。 （１）誠実という言葉について想起させる。 ○「誠実に生きる」という言葉を聞くと、どんなことをイメージしますか。 （２）学習課題を設定する。 め　誠実に生きるとはどのようなことだろうか。	7	○　誠実に生きるという言葉に対する興味や関心を高め、道徳的価値の方向付けをする。 ○　誠実に生きるとは、どのようなことなのか考えていくことを確認する。
展開	２　教材文「手品師」を読んで、登場人物の生き方について考える。 （１）手品師の心情や状況をとらえる。 ○　手品師は、どんなことで迷っていましたか。 （２）　自分が手品師だったら、どちらを選ぶか考え、その根拠を話し合う。 ◎　自分が手品師だったら、男の子との約束と大劇場のどちらを選びますか。 （３）　最後まで読み、誠実な生き方とはどのようなことかを考える。 ○　迷いに迷って大劇場を選んだとしたら、手品師は誠実ではなくなるのかな。 ○「誠実に生きる」とはどのようなことでしょうか。	３２ (8) (16) (8)	○　手品師の状況を押さえるために、話を簡単に確認する。 ○　自分が手品師だったらどんな選択をするか考えられるようにする。 ○　自分の立場や選んだ根拠を明確にするために、ノートに自分の考えを書く時間を確保する。 ○　誠実に生きるとはどのようなことなのか深く考えさせるために、大劇場を選ぶことは誠実な生き方ではないかどうか問い返す。 ○　どちらを選択したとしても、どの選択をしたとしても誠実な生き方と考えた児童の思いを認める。 ○　グループや全体で「誠実に生きる」とはどのようなことなのか相互交流をする活動を通して、誠実な生き方について自分なりの考えをもち、これからの自分自身の生活につなげられるようにする。
終末	３　自分を見つめ直す。 ①　今までの自分を振り返る。 ②　本時の学びをまとめる。 ③　これからの生活に生かそうとする。	6	※　誠実に生活しようとすることについて、自分を見つめて考えている。（ノート・発表）

７　考　察

質の高い多様な指導方法の視点から

○　自分が手品師だったらどうするかについて、心情メーターを活用したことで、自他の考えを可視化し、それをもとに活発に話し合うことができた。
○　グループごとに「誠実に生きる」とはどのようなことかを相互交流することで、誠実な生き方についての考えを広めたり、深めたりすることができた。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　①今までの自分を振り返る。②本時の学びをまとめる。③これからの生活でどうしていきたいか。の３つの視点で、毎時間の終末時に道徳ノートに書く活動を継続的に取り入れた。それにより、前時までの記録とから振り返ったり、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めたりすることができるようになった。
●　継続的に書く活動を取り入れたため、書き方がパターン化し、形式的・表面的な内容になる傾向が見られてきたので、振り返りの累積やについて検討していく必要がある。

山都中学校第２学年　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年１１月４日(水)　第４校時

授業者：喜多方市立山都中学校　教諭　半澤　冴華

研究テーマ　これからを生きるための道徳性を育むにはどうすればよいか
～「考え、議論する道徳」の実践を通して～

1　主題名　強く気高く生きる　　Ｄ－（２２）よりよく生きる喜び

2　教材名　足袋の季節　（出典：　日本文教出版　中学道徳「あすを生きる」②　）

3　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人間には誰しも誘惑に負けたり、易きに流れたりしてしまう弱さがある。しかし、良心や自身の生き方への誇りがそれを超えたとき、弱さや醜さを克服した、強く気高い生き方を選択できるようになる。人間の心に潜む弱さと強さ、醜さと気高さの二面性に気づき、よりよい生き方、強く気高い生き方に目を向けられるようにすることが重要である。

（２）生徒の実態（生徒観）

男子４名、女子１１名、計１５名の学級である。基本的な生活態度はよく身についており、物事に集中して取り組んだり仲間と協力して行動したりすることができる。第１回道徳アンケートでは、内容項目「よりよく生きる喜び」において相対的に低い結果となった。すべきことの前に友人と別のことをして指導された経験もあるなど、自分の心の弱さに負けてしまう場面も見られる。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

「私」が少年の頃、貧しさと寒さに追い詰められて、大福売りのおばあさんから釣り銭をかすめ取り、足袋の代金にしてしまう。おばあさんの「ふんばりなさいよ」の一言が、足袋を手に入れることしか頭になかった「私」の心を大きく揺さぶる。その後、自責の念に駆られた「私」は、初めてもらった月給でおばあさんに償いをしようと訪ねるが、そのおばあさんは既に亡くなっていた。「私」の心の葛藤や決意をもとに、人間のもつ弱さや気高さについて考えられる教材である。

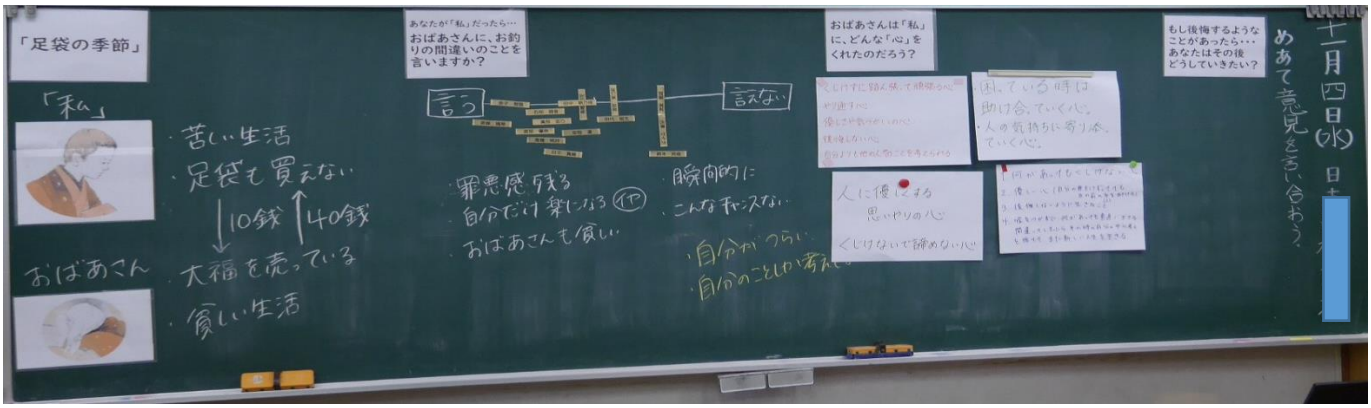
導入から資料前半にかけては、自分の行動の振り返りや主人公の立場に立って考えることを通して「本当はこうした方が良い」と分かっていながらも、つい欲求に負けてしまう人間の心の弱さがあることを理解する。またそれが誰にでもあるもので、その後どうするかを考えることができる。

資料後半では、主人公の心情や決意、今後の生き様について相互に考えを交流して多角的に見ながら価値に迫ることができる。失敗は誰にでもあるが、それを受け入れて次の行動に生かせるよう考えられることが人間の気高さであることと、そうすることで喜びを感じられることに気づき、自らの生活に取り入れようとする態度につなげていきたいと考える。

4　本時のねらい

人間の中にある弱さや醜さを理解し、それを克服する強さや気高さがあると自覚する活動を通して、人間としての誇りをもって生きようとする前向きな態度を育てる。

5　板書計画



6　学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される生徒の反応）	時間 (形態)	○指導上の留意点 ※評価
導入	1、日常で「心の弱さ」が出てしまう場面での行動について事前アンケートの結果を見て振り返る。	5 (全体)	○　アンケート結果を通し、本時のねらいとする価値へ方向付けをする。 ○　ゲストティーチャーが過去の経験を紹介する。
展開	2、資料前半部分に着目し、「私」のとった行動について話し合う。 （1）教師の範読を聞く。 （2）登場人物の状況をとらえる。 （3）「私」の立場になって考える。 ○あなたが「私」だったら、おばあさんの間違いを言いますか。 ・だましてまでお金を取りたくないから言う。 ・欲しかった足袋をやっと買えるから言わない。 3、資料後半に着目し、「私」の心情を追いながら、主題に迫る。 （1）教師の範読を聞く。 （2）物語の概要を確認する。 ○「私」が「無性に自分に腹が立ってしょうがなかった」のはなぜか考えさせる。 ・自分の気持ちを伝えられることもできない自分に腹が立つから。 ・自分の過ちを忘れることなく反省し、いつかは償いをしようとしたから。 ◎おばあさんは「私」に、どんな「心」をくれたのだろうか。 ・辛いことがあっても逃げずに頑張る心。 ・自分だけでなく他人を思いやり励ましそうとする心。 ○「私」はこの後、どのように生活しただろう。 ・辛いことがあっても、あきらめずに取り組んだ。 ・嘘をつかず、正直に生きた。	35 (全体) (全体) (個・班・全体) (全体) (全体) (班・全体)	○　2 人の貧しい生活の状況や関係性を読み取らせる。 ○　舞台、生活、物の名称、お金の単位と価値など実態と合わないところの説明をして、自分事として考えやすくなるよう留意する。 ○　「私」の立場になって考えることを強調する。 ○　それぞれの意見に対し、発問で揺さぶりをかける。 ○　自分が「やってしまったら」その後どうするか考えさせる。 【言う】・言えない「私」についてどう思うか。 【言えない】・悪いことだと分かっていても、しょうがない状況ならやっても良いのか。 ○　「感情直線」にネームを貼らせ、自分の考え、立場を明確にする。また、程度も表せるようにし、理由を考えさせる。 ○　「私」は後悔しているがどうしてか考えさせる。 ○　「やってはいけない」と分かっているのにやってしまうのはなぜか考えさせる。 ○　何度も仕事を変えながらくじけずにやり通せたのはなぜか考えさせる。 ○　班で話合う前に、自分の考えをまとめる時間を取り自分との対話ができるように留意する。 ※　よりよく生きることについて、自分とは違う様々な考え方と比べ多面的・多角的に考えているか。(発表・観察) ○　班で話し合ったことをホワイトボードにまとめ黒板に掲示する。代表生徒が、班で出た意見を発表することにより、学級全体で考えを共有させる。
終末	4、ゲストティーチャーの話を聞く。 5、「自分の生活」について考える。 ○学んだことを、自分の今後の生活にどのように活かしたいか書かせる。	10 (個)	※　自分の体験やゲストティーチャーの話をふまえ、「よりよく生きる喜び」について自己を見つめているか。 ・　苦手なことから逃げずに生活する。 ・　失敗しても、それを認めて反省し、同じことをしないようにする。

7　考察

質の高い多様な指導方法の視点から

（1）　全職員（担任外）による道徳授業の実施について

【担任外による授業】

○　担任以外の教師による道徳の授業を実践した。この授業が定着することで、校内職員によるゲストティーチャーを活用するときに、生徒が素直に受け入れやすい素地をつくることができた。

○　空き時間等を利用し、担任と内容項目についての方向性や展開の位置づけ、時間配分などの打合せをスムーズに行うことができた。外部からのゲストティーチャーを活用しようとすると、この点が困難となるが、職員同士だと授業のイメージの共有を容易にすることができた。

○　全教員が道徳科の授業に参加することにより、道徳科に対する意識が高まった。また、授業のアイディアの発掘・共有・伝達に有効に働いた。

○　道徳の授業研究で協働してきたことを教科の授業に反映することができた。そして一番の収穫としては、１教科１担任の小さな学校でも、「道徳なら話し合える。協働できる。」という「同僚性」を高めることができた。

●　担任外の教師が授業をする内容項目を事前に計画することが必要である。

（2）　ゲストティーチャー（校内の職員）を積極的に活用することについて

【ゲストティーチャーの活用】

○　コロナ禍において、外部からゲストティーチャーを招く授業ができなくても、道徳科の授業の充実を目指し工夫してきた。校内の職員がゲストティーチャーとして関わる授業を構想することで、全教職員で組織的に道徳教育を実践することができた。

○　教材によっては生活経験から類推することが難しい内容も、身近な教員から資料の内容項目に関する話を聴くことで、教材の中の話だけで終わらずに再度自分の生活の中でどうなのかを問い直すきっかけにすることができた。

○　ゲストティーチャーを活用し、授業の構成に幅を持たせたり、五感を刺激したりすることで、生徒に新たな揺さぶりをかけることができた。

●　ゲストティーチャーと授業者が、教材の内容項目に関するどんな話をするか事前に綿密に打合せすることが必要である。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　生徒のワークシートの中に、授業に対する自己評価の項目を設け、授業を振り返る活動を継続してきた。また、生徒が書いた振り返りに対して、朱書きでコメントし、生徒の心の変容や考えの深まりを認め、励ます評価につなげるようにした。

○　個々の生徒の考えを可視化するために「心のものさし」を利用する授業を継続して行ってきた。授業後には、毎週発行する学年通信で道徳の授業の様子や感想を紹介した。それによって一人一人の考えを共有し、級友の考えの良さを認め合う姿や意見交換する姿が見られた。

●　発表や話合いなど対話の場面の中で、生徒を見取り、的確に評価するための工夫が必要である。生徒の自己評価に加えて、生徒一人一人のよさを評価していけるようにしていきたい。

第2学年通信　第27号

立　志

～前よりも深く，前よりも高く～

○道徳の研究授業をしました

【学年通信】

檜枝岐小学校第３・４学年　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年９月３０日（水）第５校時
授業者：檜枝岐小学校　　教諭　　坂口　圭

授業テーマ	心のバロメーターを活用した友達との意見交流を通して、公正公平な態度で誰にでも温かく接しようとする心情を育てる授業

１　主題名　だれとでも仲よくしよう　　C－（12）　公正、公平、社会正義

２　教材名　山びこ村の二人（出典：学研　新・みんなの道徳４）

３　主題設定の理由

(1)　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

「公正・公平な態度」とは、差別を許さず、公正、公平な態度で、誰にでも温かく接しようとするための判断力を育てることをねらいとしている。不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障をきたし、いじめなどにつながることを理解させることが求められる。誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにすることが重要である。

(2)　児童の実態について（子ども観）

本学級の児童（男子６名、女子７名）は、どの教科においても学習に意欲的に取り組んでいる。自分の考えをもって話し合ったり、分からないところは積極的に質問したりして、自ら学習の理解を深めようとする姿がある。一方で、自分の思いを優先し、相手の気持ちを考えない言動をすることでトラブルになってしまうこともあった。また、友達に同調するあまりに善悪の判断がつかなかったり、正しいと思うことを言えなかったりすることもある。

事前のアンケートでは、「あなたは、誰に対しても分け隔てをせず、同じように接することができていますか」という内容を児童に聞いたところ、13人中8人ができていない、5人ができているという結果になった。できていないと答えた児童の理由には、「仲のよい友達とそうでない友達とでは話し方が変わってしまう」や「自分のことを公平にしてくれない人には、自分も公平にはできないから」などの回答があった。

(3)　教材及び指導について（教材観及び指導観）

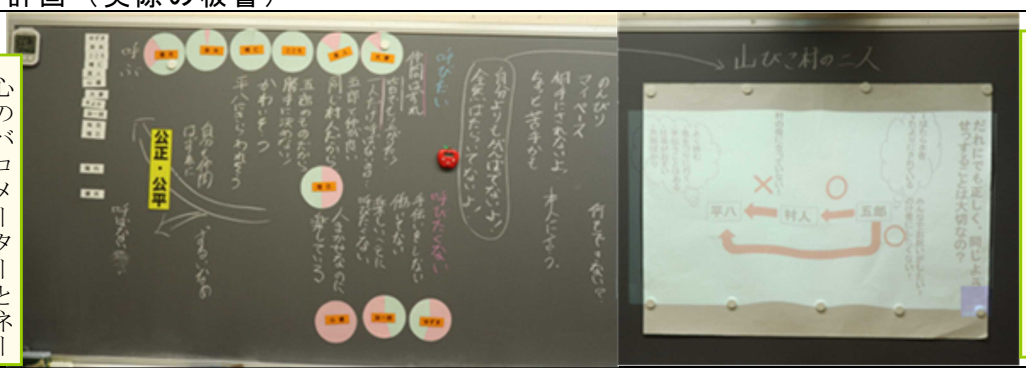
本教材は、怠け者で村人から信頼されていない平八を宴に呼ぶべきなのか否かについて考えることで、ねらいに迫るものである。

展開の前半では自分が村人だったらどうするかについて問い、その時の自分の気持ちを心のバロメーターに表すことで、グループや全体での交流をスムーズにする。その上で全体で多面的・多角的に考えさせていくことにより、誰にでも温かく接しようとする心情を育てたい。

４　本時のねらい

心のバロメーターを活用して、道徳的価値について友達と交流したり、実生活における葛藤場面を考えたりすることを通して、差別を許さず、公正、公平な態度で誰にでも温かく接しようとする心情を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



心のバロメーターとネームプレートを活用して心の可視化を図った板書

本時のねらいを達成させるためのＩＣＴ活用

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
導入	１　道徳的価値の方向づけをする。 ○　あなたは誰に対しても同じように接することができていますか。	５	○　本時で扱う道徳的価値の方向付けを行うために、事前にとったアンケート結果を表やグラフに表し、視覚的に捉えやすくしておく。
展開	２　教材「山びこ村の二人」の内容を確認し、登場人物の行動を話し合う。 ◎　もしもあなたが村人だったら平八を呼びたいと思いますか。 呼びたい・呼びたくない ３　本時のまとめをする。 ○　公正公平とはどのようなことですか。	３０	○　村人や平八の気持ちを考えさせたり問い返したりすることにより、その時の判断について多面的・多角的に考えさせる。 ○　心のバロメーターを活用し、その時の自分の気持ちについて理由を述べながらグループや全体で交流することにより、多様な考えに気付かせる。 ○　黒板にネームプレートを貼り友達や自分の考えを可視化することで意見交流の活性化を図る。 ※　公正公平について多面的・多角的に考え、深めたか。【ワークシート・発言】
終末	４　本時の振り返りをする。	１０	○　実生活での経験を振り返り、自己を見つめる。 ※　公正公平な態度で接することについて、自分自身との関わりで考えを深めたか。 【ワークシート】

７　考察

質の高い多様な指導方法の視点から

（１）「事象に対して児童生徒一人一人に自分の考えをもたせる工夫」について

○「もしもあなたが村人だったら平八を呼びたいと思いますか」という問いかけに対し、自分の考えを「心のバロメータ」として表現させたことにより、課題を自分ごととして捉えることができていた。

○　心のバロメータをもとに児童の発言の意図や内容について全体で共有し、教師の意図的な揺さぶりの問いかけを行うことで、様々な価値観に触れさせることができた。

○　毎時間振り返りシートを活用して書く時間を確保することにより、自分の今の様子や目指したい姿を正直に書く児童が増えた。さらに、自分を見つめ直す記述や自分の弱さに触れる記述も見られた。

●　発問が教師主導になってしまい、子供たち自身で問いを設定できなかった。

（２）「他者と考えを交流や共有し、様々な考えに触れる学習活動の工夫」について

○　心のバロメーターを使って自分の気持ちを表したり、ネームプレートで立場を明確にしたりすることで、自分や友達の考えを比較・共有することができた。

○　グループの中で自分の考えを発表する場や、そのことについて話し合う場を設定したことで、他の人の考えを理解したり自分の考えをさらに深めることができた。

●　アンケート結果は導入時だけでなく終末時にも提示すれば、本時の学びを生かしながら自己を深く見つめる手立てとなったと考える。

●　考えを深めるためには、ランダムではなく意図的指名を取り入れていきたい。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　話合いによって、自分や友達の考えがどのように変化したのかが分かる「心のバロメーター」の活用により、自分と違う立場や感じ方、考え方を受け止め、自分はどうかなと問いかけ意識をもち、考えることができていた。

○　振り返りの時間を毎時設定し、振り返りシートへのコメントなどで一人一人を受け止めて認めたことにより、自分との関わりや多面的・多角的な見方で振り返ることができるようになってきている。

南相馬市立鹿島中学校第３学年　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年１０月８日（木）第４校時
授業者：南相馬市立鹿島学校　教諭　菊地めぐみ

授業テーマ	思考ツールを生かした多様な意見交換を通して、道徳的価値への考えを深め、自己の生き方について関心を高める授業

１　主題名　いのちを考える　Ｄ－（１９）　生命の尊さ

２　教材名　『あなたはすごい力で生まれてきた』（出典：「新しい道徳３」東京書籍）

３　主題設定の理由

(1)　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

「生命の尊さ」は、中学校３年間を通して学習してきた価値観である。中学校を卒業した後の進路や人生を決めていく発達段階において、どのように自分が誕生してきて、その生命がどのように育まれてきたのかを振り返ることは重要である。「生命の尊さ」を考える授業を通して、「生きることの尊さ」を改めて実感し、これからの自分の人生も大切に歩んでいこうとする態度を育むことができると考える。

(2)　生徒の実態について（子ども観）

３学年としての生活も半年が過ぎ、男女仲良く協力的に生活することができている。しかし、６月の道徳アンケートでは、「自分自身の良さに気づいている」生徒の割合が低くかった。将来についての明確な目標がある生徒もいる一方で、自分がどのような生き方をしたいかを具体的に思い描くことができない生徒もいる。そうした現状を踏まえ、生徒にはありのままの自分や今生きていることを肯定的に捉え、将来を考える姿勢を育むことが必要だと考える。

(3)　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、生まれてきた命は、子ども自身の力、そして母親との協働作業を経て受けた生であり、生き抜いた命を、誇りをもって生きてほしいというメッセージが強く込められている。導入では、事前アンケートをもとに「人生で大変だったことは何か」という問いから始め、教材への関心をもたせるようにしたい。また、より生徒たちの心に響くよう、実際の出産の映像を補助資料として用いる。展開では、生徒が感じたことを多面的・多角的な視点で考察できるように、色を使って生命の力強さを表現し合う活動を行う。終末では保護者の経験談を紹介し、生徒が考えた生命の力について、自分自身に重ねて考えることでまとめとしたい。

４　本時のねらい

生まれてくる子どもの力について、教材から感じたことを色で表現し、他者と考えを共有することを通して、今の自分を肯定的に捉え生命を尊重しようとする態度を育む。

５　実際の板書

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価　☆テーマとの関連
導入	１　事前アンケートの結果を見る。 （１）人生で大変だと思うことは何か考える。 ・全体の意見を見ながら、自分の回答を振り返る。 （２）人生において１番初めに大変だった出来事が何かを知る。	10	○事前アンケートの結果をPPTで表示する。 ☆人生で初めての大変な出来事である命が誕生する瞬間について考えることをきっかけとし、展開への導入をする。
展開	２　人生で初めての大変な瞬間（生まれる瞬間）について考える。 （１）出産のビデオを見る。 （２）教材文を読む。 ・母親だけではなく子どももものすごい力を使っていることが分かった。 ・失われている命もある。 ３　生まれてきた子どもの命の力を色で考える。 ◎生まれてきた子どもの命の力を色で表現するとどんな色で表せるだろう。 （１）命の力を表したワークシーに色鉛筆で自由に染める。 （２）描いたものを共有する。 ・力強さを表現した。 ・自分の力、母親の力、失われた命が含まれている。 ・これから生きようとする希望がある。	30	○電子黒板で動画を再生する。 ○電子教科書で朗読音声を再生し、心に残った箇所に線を引かせながら読ませる。 ○染める際には、複数の色を使ったり染め方を工夫したりしてよいことを伝える。 ○全員のワークシートを黒板に貼り、友達の描いたものと比べさせる。 ○特徴的な染め方をした生徒を指名し、なぜそのような染め方になったかを発表させる。 ☆思考ツールを用いて、多面的・多角的に考察させ、意見交流で考えを深めさせる。 ※命の力について感じたことを色や言葉で表現し話し合うことを通して、多面的・多角的に考えている。（ワークシート・発表）
終末	４　まとめと振り返りをする。 （１）保護者からのメッセージを聞く。 （２）保護者の書いたアンケートを読む。 （３）本時の授業の感想をワークシートに書く。 ・今生きていることについて自分の考えをまとめる。	10	○事前に保護者に、出産時のエピソードや、子どもへのメッセージを書いてもらうよう依頼し、それを代読する。 ○保護者アンケートを生徒に返す。 ※今生きていることの尊さを感じ、自分自身を見つめている。（ワークシート）

7　考察

質の高い多様な指導方法の視点から

(1)　主体的な学びを促す課題設定の工夫

授業者は今の自分の大変さもあるが、生まれた時の大変さと相対化させ、生きることの尊さについて考えを深めてほしいと考えた。そこで、子どもたちの生活と本時の学習内容を結び付けるために事前にアンケートを行い、その結果を紹介した。「人生で大変だと感じること」については「物事が上手くいかないとき」や「テストで上手くいかなかったとき」という意見が多かった。受験を控え、学習面での不安が伺える。「人生において一番初めに大変だった出来事は何か」と発問したところ「生まれた瞬間」とのつぶやきが見られ、学習課題に結び付けることができた。そして、養護教諭との連携を図り準備した出産シーンをまとめた動画を視聴させた。これまでの性指導（各学年毎年２時間実施）の成果もあり、教室に良い雰囲気、緊張感が漂い、子どもたちは真剣な表情で視聴した。映像は、赤ちゃんと母親だけでなく、父親のシーンもあり男女問わず自分事として捉えることができたものと考える。その後、教材との対話を通し、価値についての理解をもとに自分の考えを深めていった。生徒からは感動した点について「赤ん坊の方だって力をふりしぼって」「奇跡が重なって生まれた」などの意見が出され、出産は母親、赤ちゃんの協働作業であることについて考えることをきっかけに自己を見つめていた。

(2)　多面的・多角的に考えさせる発問の工夫

本実践では思考ツール（ハートチャート）を活用し、自分の考えを色で表現する活動を取り入れた。一色で表現するだけでなく数色組み合わせて表現する生徒も見られ多様な考えを引き出すことができた。個人思考の後は黒板に全員のワークシートを貼りだし、教師のコーディネートによる全体共有の場を設定した。寒色系と暖色系の色の系統別で指名し発表させるだけでなく、似ているもの、ちょっと違うものなども発表させ、多面的・多角的に考えられるよう工夫することができた。例えば、ピンクを使った理由が「これからの希望、元気」や「周りを幸せにするあたたかい感じ」、「周りの人を笑顔にし、幸せにする力」があり、同じ色でも、違った捉え方を引き出すことができ、生徒の見方を広げることができた。

【生徒のワークシート】

(3)　お互いを認め合い、励まし合う振り返りの工夫

子どもたちに「今の自分」について自信をもち自分をありのままに受け止め、自己有用感を育むために、今回の振り返りでは、保護者の事前アンケート（生まれたころのエピソード）を活用した。数名の保護者アンケートを代読した。子どもたちは恥ずかしがりながらも、嬉しそうな表情でアンケートを読んだ。最後の振り返りでは、次のような学びを捉えることができた。

- 「生きるということはとても不思議だと思った。キセキはあるし、縁もあるし、この世界はどうなっているのか。この世に生まれてまだ１４年だけど将来の自分の子どもも大切にしたいと感じました。お母さんの力は偉大だ！！！」
- 「何か辛いことがあったときに、親に対して、産めと頼んでないのにと思うこともあったけど、そう思うのは絶対にやめようと思いました。」
- 「母からのメッセージを見て、母が自分のことをすごく考えてくれていることが改めて分かった気がした。また、母は自分のことを理解してくれている人だと思った。」

本時で学んだことが生かされた振り返りであった。命の「希少性」、「偶然性」などについて、自分事として振り返っている。また、今後の生き方を考え、ありのままの自分を大事にしようとする気持ちが表れており、自己肯定感も高まりつつあると考える。

四倉高等学校第３学年　道徳学習指導の実際と考察

日　時：令和２年１０月１日　（木）　第６校時
授業者：福島県立四倉高等学校 教諭 佐藤博美
教諭 吉田孝夫

授業テーマ	キーワードを「差別」「偏見」「公正」「公平」とし、資料の読み取りや友達との意見交換を通じて、どのような行動をとるべきかを考察させる。

１　主題名　なぜ差別と偏見が生まれるのでしょうか。

２　教材名（「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳科資料」を一部変更）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

世の中にはまだまだ差別や偏見が見られる。また、学校においては差別や偏見が「いじめ」に発展することがある。よりよい社会を形成するためには、自他の不正や不平等を許さない断固とした姿勢と、公正で公平な視点である。そして、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力をすることが大切になってくる。

そのためには、生徒自身がどのような言動が差別でどのような見方が偏見かに気づき、それをなくすためには、お互いを認め合い、尊重し合うことの重要性を理解させ、望ましい理想の社会の実現に積極的に関わる態度を育成していく。

（２）生徒の実態（子ども観）

男子２９人、女子２１人の合計５０人の学年である。全体的に生徒は落ち着いており、教師の指導には素直に従う。授業への取り組みについても、教師の発言に対して意欲的に聞こうとする態度が見られる。しかし、授業以外の普段の生活を観察していると、コミュニケーション不足による人間関係のトラブル、無断での遅刻や欠席、課題や宿題などの提出物の期限を守れないなど、まだ十分に社会性が身についていない面も一部の生徒に見られる。

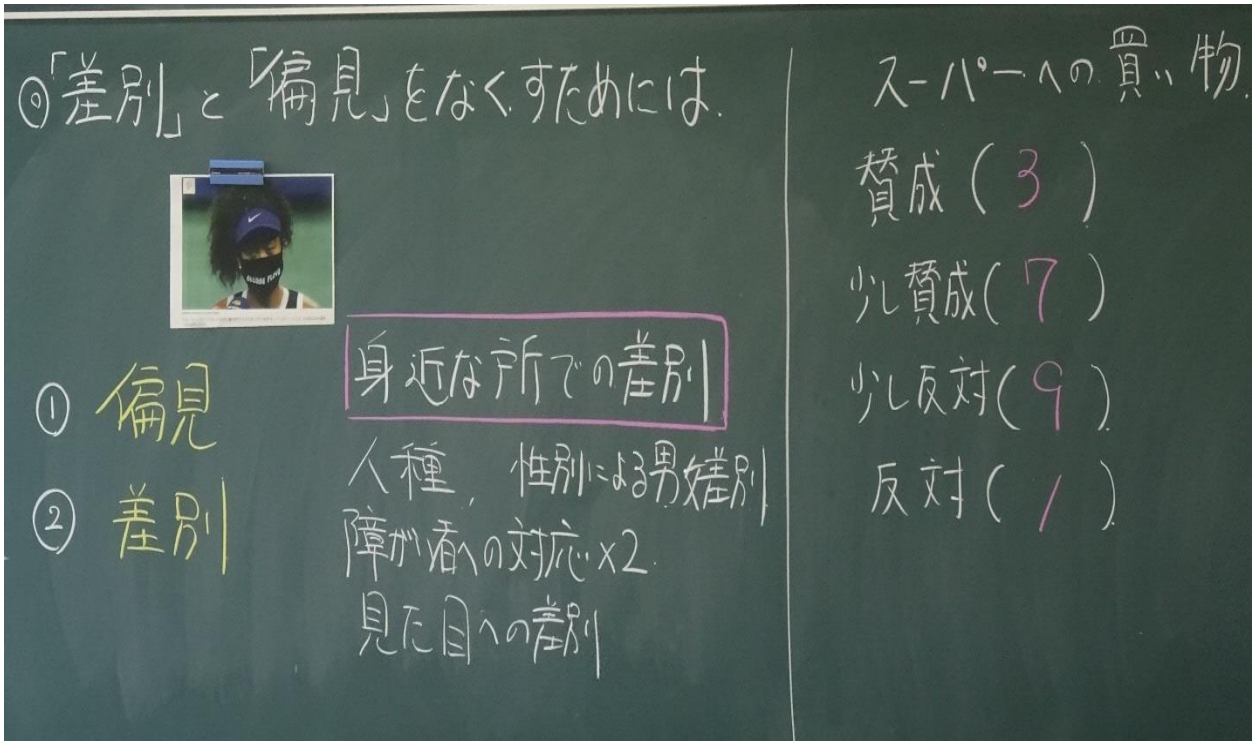
（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

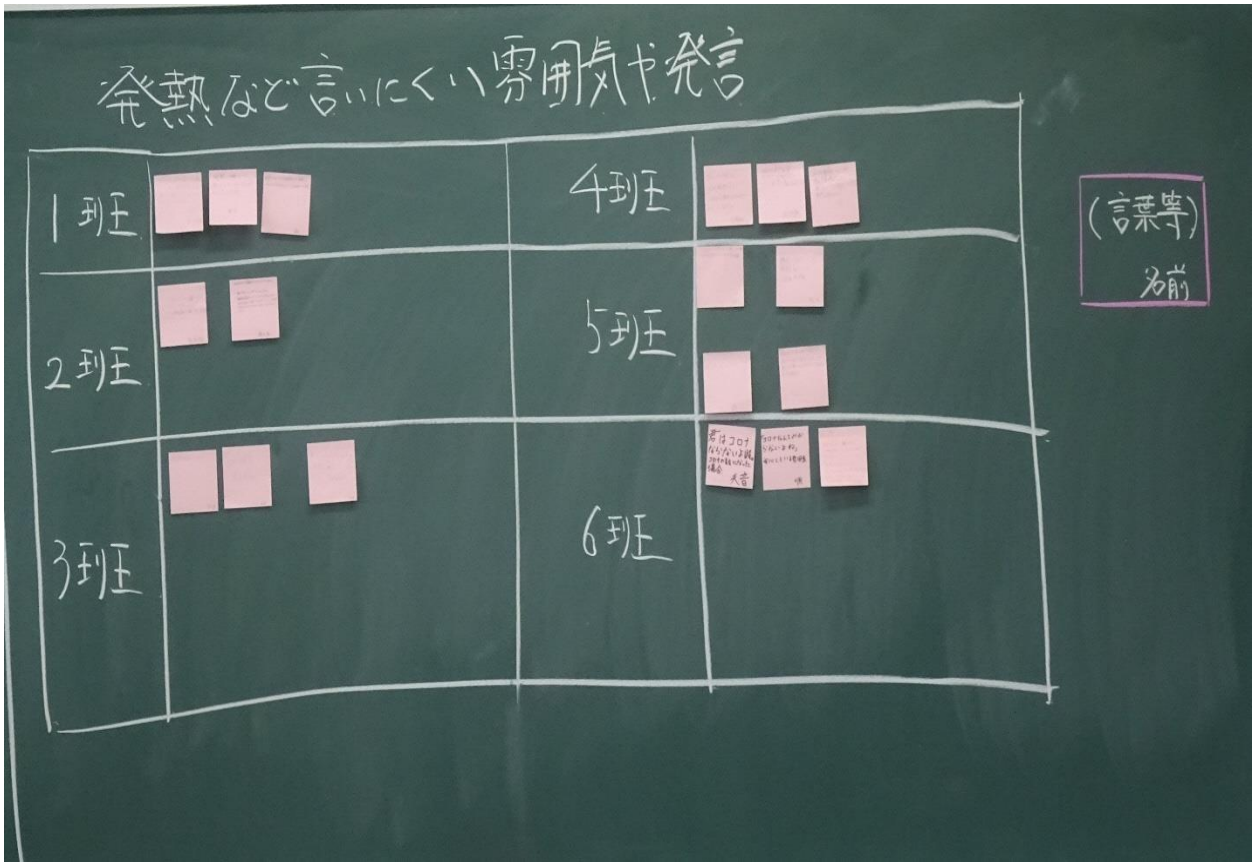
自分の意見や考えをワークシートにまとめ、発表する。このことを通じて、他者の発表を聞いて、自分の意見や考えとの類似点、相違点を考えさせる。また、立場が変わったとき、個人ではなく集団になったとき、自分の意見や考えがどのように変わることがあるのかについて、多面的・多角的な視点から考察させたい。

４　本時のねらい

差別や偏見をなくすためにはどうしたらよいかを考え、話し合うことを通じて、道理にかなって正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする態度を養う。

5　板書計画


◎「差別」と「偏見」をなくすためには
① 偏見
② 差別
身近な所での差別
人種，性別による男女差別
障がい者への対応×2
見た目への差別
スーパーへの買い物
賛成（3）
少し賛成（7）
少し反対（9）
反対（1）


発熱など言いにくい雰囲気や発言
1班
2班
3班
4班
5班
6班
（言葉等）
名前

6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点 ＊　評価
導入	1．「差別」「偏見」からイメージするものを発表する。 2．本時の目標を確認する。 ・どのような場合であっても「差別」「偏見」は許されないことを理解する。	3 2	○1 「大坂なおみ」のマスクの写真を掲示する。
展開	3．「差別」「偏見」の語句を確認する。 ・ワークシートに記入する。	3	○3 「差別」「偏見」はいじめと同じであることを伝える。
	4．うわさを聞き自分はどう行動するかを考える。 指示①資料「スーパーへの買い物」に取り組む。 ・スーパーへ行くことについて考える。 ・心のものさしで立場を示す。 ・上記について理由を考え、グループで共有する。	10	＊4 人によって受け止め方が違うことに気付いている。
	5．社説を読み、新型コロナウイルス感染症に関する差別の事例を知る。 指示②社説「コロナ過剰反応 偏見は社会不安しか生まない」に取り組む。 ・差別や偏見にあたる事例にアンダーラインを引く。	10	○5 どの部分が「差別」「偏見」にあたるかを考えて読むように指示する。
	6．誹謗中傷と情報公開について考える。 ・「新型コロナウイルスの３つの顔」の説明を聞く。 ・発熱などの症状を言いにくい雰囲気や発言について考える。	7	○6 日本赤十字社「新型コロナウイルスの３つの顔」の画像を使用して説明する。
	7．◎「差別」「偏見」をなくすために、自分にはどのようなことができるか、考えよう。 ・ワークシートに記入する。 ・グループで共有する。	10	＊7 「差別」「偏見」のない社会を形成するために、どのようなことが大切か考えを深めている。
終末	8．教師によるまとめ ・教師の説明を聞く。	5	

7　考察（成果○　課題●）

質の高い多様な指導方法の視点から（「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳科教材」の活用の視点から）

（1）「生徒自身が興味・関心を持ち、主体的に考えるような課題を見付ける」について

○　「大坂なおみ」の写真を使用し、身近な所での差別についてイメージさせることができた。

○　身近な所でどのような所が差別と感じるかについて話し合い、発表することができた。

（2）「グループ活動を通して、様々な意見や考えを聞き、多角的な見方や考え方を培うようにする」について

○プリント学習の「スーパーへの買い物」について、【賛成】【少し賛成】【少し反対】【反対】について、それぞれ多様な意見があることを知ることができた。

○【賛成】【少し賛成】【少し反対】【反対】の理由についても、様々な意見を共有することができた。

●発問「発熱などの症状を言いにくい雰囲気や発言」について考える活動においては、教員側が意図する回答を得ることが難しかった。発問について検討する必要性がある。

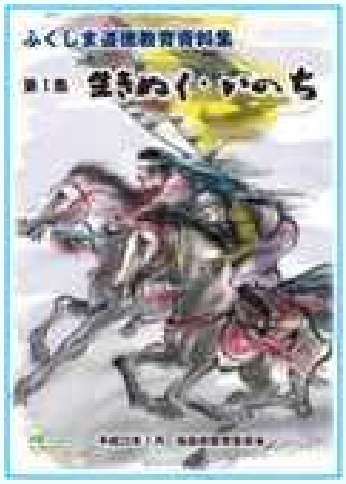
（3）「他者の考えとの比較を行い、課題に対するより最適な解について、検討することにより考えを深める」について

●発問「発熱などの症状を言いにくい雰囲気や発言」について考える活動においては、生徒がふせんに記入して発表するものであった。しかし、発表に終始したために、ここから考えを深めたり広げたりすることができなかった。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の観点から

○グループワークについては、他者の意見を批判したりせず、しっかり相手の意見を最後まで聞くように指導した結果、各グループでは少数ではあるが積極的に話を切り出す生徒もでてきた。

○授業のまとめ「差別をなくすために自分はどのようなことができるか」においては、「いろいろな意見を許容する」、「相手の気持ちを考えながら話す」といった建設的な意見がみられた。



◆　ふくしま道徳教育資料集三部作　◆

第Ⅰ集　生きぬく・いのち

第Ⅱ集　敬愛・つながる思い

第Ⅲ集　郷土愛・ふくしまの未来へ

ひとつ、ひとつ、
実現する
ふくしま

福島県教育委員会